

（特選）

☆少子化の町に双子や桃の花

良月

子供の少なくなっている町に双子の生まれた家がある。お祝いをするかの如く桃の花が満開となった。めでたさに溢れた句。四方を山に囲まれた町の情景も眼に浮かぶ。

・うららかや腹みせ眠るカンガル―

進

上野動物園の景であろうか。カンガル―が腹丸出しで眠っている。季語「うららか」と眠るカンガル―の取合せが決まっている。子供たちが興味深く見つめている。

・子は母に母は子に添ひ磯遊び

かつを

若い母と幼い子供が潮干狩りで浅利を掘っている。いかにも楽しそうな情景が目にかかる。リズムの良い句である。近くにも沢山の人が浅利を掘っている。

（入選）

・磯遊び抱いてもらって座敷犬

一江

・人影の動く牛舎や桃の花

尤子

・一年生母待つ辻へまっしぐら

繁好

・和菓子屋の活ける一枝桃の花

繁好

・入園の黄帽子の列朝ざくら

良月

・迷子出るほどの賑はい磯遊び

たか志

（佳作）

・隣の子お辞儀もできて桃の花

かつを

・親子して揃ひの帽子磯遊び

進

・桜満ち校門潜る門出かな

邦夫

・こぶし咲く丘に登りて故郷を

きよし

・少しづつ窓辺明らむ朝寝かな

たか志

・浜に城造りて帰る磯遊び

玄舟

・磯遊び波を被りて泣く少女

忠男

・鶯のケキヨケキヨケキヨに目覚めけり

邦夫

・磯遊びいつの間にやら潮満ちて

きよし

・藁屋根の並ぶ街道春夕焼

たか志

・まとまりて重なり合ひて桃の花

忠男

・裾まくり爺も加はり磯遊び

繁好

・春昼の少し濃ひ目の緑茶かな

邦夫

・すれ違ふ同じ髪型春日傘

たか志

・バケツ持ちお尻濡らして磯遊び

邦夫

・写経する古刹の庭の芽吹きかな

忠男